

第56回「産学官交流」講演会・交流会

主催：静岡市清水産業・情報プラザ 共催：しみず新産業開発振興機構

第56回（平成21年度第6回）のご案内を申し上げます。

今回は、静岡大学より下記のような内容でご講演いただきます。大学の一部を知ると同時に、先生方との交流も持っていただき、今後の企業活動に活かしてもらえればと考えます。多数のご来場をお待ちしております。

学 校	静岡大学		
開催日時	12月11日（金）		
	講演会	17:00～18:30	交流会 18:30～19:30
会 場	講演会	清水商工会議所（産業情報プラザ）	5階 会議室
	交流会	同 上	7階 産学交流サロン
講演 1	『人と森の共利共生の実践倫理を考える～天竜林業、清水港木材産地の視点から～』		
	静岡大学農学部 小嶋 睦雄 教授		
講演 2	『“バイオ素材としての有用糖質の変換・創製”～課題克服型研究の取り組み～』		
	静岡大学農学部 碓氷 泰市 教授		

参加料 無料（交流・懇親会参加者は1,000円 軽食・飲物を用意いたします）

定員 50人

申込方法 下記申込書に記入してFax、Mailで申し込み下さい。

事務局 清水商工会議所 新産業振興室（担当：相磯、久能）

TEL：（代）054-355-5400 FAX:054-340-5117(専用)・352-7817 mail:info2@nio-s.net

学校側との積極的な交流を図るためにも、ぜひ交流会までご出席下さい。

尚、申込書にご記入いただいた情報は、当日名簿として配布するほか、商工会議所からの各種連絡・情報提供に利用する事がありますことを、ご了承下さい。

第56回「産学官交流講演会・交流会」参加申込書（静岡大学）

平成21年12月11日（金）開催

事業所名		
参加者名		
所属・役職		
講演会	参加・参加しない	参加・参加しない
交流会	参加（有料）・参加しない	参加（有料）・参加しない
住所		
TEL		
E-mail		
FAX		

欄：今後の『産学官交流会』のご案内を希望される方はご記入願います。

（原則E-mail案内とさせていただきます。FAXでのご希望の場合は、「FAX欄」のみご記入下さい。）

新産業振興室（相磯、久能） FAX 054-340-5117

講演1 『人と森の共利共生の実践倫理を考える～天竜林業、清水港木材産地の視点から～』

静岡大学農学部 小嶋 睦雄 教授



生物学、生態学の専門用語である「共生」が、市民権を得て四半世紀の時間が経過したのである。20世紀は戦争、建設の世紀といわれ、戦争は最大の環境破壊という。

大量生産、大量流通、大量消費のシステムは一部の人類に経済的な豊かさをもたらしたものの、その先に、有限資源の果てしなき資源利用、再生可能速度を超える再生可能資源を消費し、その循環量と速度を超える大量廃棄社会を造ってしまった。

遠州・天竜林業は建築用材生産を目的とした人工林の造成を進めてきた。駿州・清水は大井川等流域の天然林を開発・伐採・搬出し、木製品を製造してきた歴史を有する、全国屈指の「木都」であった。「木都」は再生産速度に追いつけず海外の原生林・天然林に目を向けた。そして、高度経済成長期、安定成長期を支えてきた。が、木材の総合自給率は20%台まで落ち込んだ。同時に海外、とりわけ熱帯林地帯の先住民族等の自給自足経済から欧米型「文明」と現金経済化への道を歩ませたが、彼らの想像を絶する自然環境、文化、暮らしを変えさせた。違法伐採は、今でも続いている。

平成時代は間もなく四半世紀の時を迎えようとしている。往時の原木・丸太の山は市民の目から消えた、香りも消えた。工場も閉鎖を余儀なくされた。しかし、・・・

21世紀は、木と環境の世紀という。森林と木の、多面的な機能が改めて注目されてきた。日本人は、「木離れ」が進んでいるとはいえ、「たらい」から「棺桶」「卒塔婆」まで、つまり人生の始めと終わりだけでなく、節目、節目で森と木の恵みに活かされてきた。

我々は、改めて、人と森の共生関係を再確認すべきではないだろうか。

講演2 『“バイオ素材としての有用糖質の変換・創製”～課題克服型研究の取り組み～』

静岡大学農学部 碓氷 泰市 教授

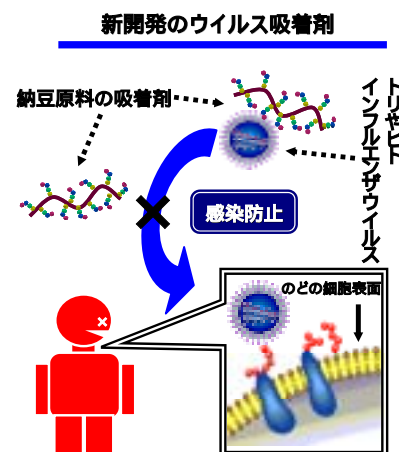


「糖」と言えば甘い砂糖を思い浮かべますが、糖の役割はそれだけではない。糖質が生物の活動や生命維持のメカニズムの中で、重要な役割を果たしていることが明らかになって来ている。ここでは、糖質の構造改変による高機能糖質素材に関する研究成果を紹介する。

1. バイオマス資源であるキチン構成成分のキチン単糖 (N-アセチルグルコサミン)やキチン二糖を出発基材として、一段階で実に簡単に有用糖質に導いた。

単糖からは化学反応により特異な構造を有するフラノース (5員環) 誘導体を変換する方法を、二糖からは酵素反応により生理活性高級キチンオリゴ6,7糖を合成する方法を開発した。

2. 現在、社会問題となっているインフルエンザウイルス感染における動物宿主細胞へのウイルス受容体糖鎖構造に着目し、これら糖鎖を納豆由来-ポリグルタミン酸分子上に側鎖として導入した人工ムチン(糖鎖含有ポリペプチド)として作製した。人工ムチンは、インフルエンザウイルスに対する強力な感染阻止活性を有するバイオ材料としてばかりでなく、ヒト型とトリ型を区別する糖鎖プローブとしても有用であることを実証した。



以上